

特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr.310

Oktober 2016

NPO 法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE

GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

新企画「神戸日独協会 ドイツワインの会」

～新企画「神戸日独協会 ドイツワインの会」とは～

新企画「神戸日独協会 ドイツワインの会」では、“日常生活の中でワインを楽しむようになるきっかけづくり”をコンセプトに、毎回講師を迎え、数種類のワインを味わいながら、種類や産地、飲み方といった一見初歩的だけれど曖昧にしがちなワインの「いろは」を振り返り、ドイツとその食文化への理解を深めることを目的としています。

かつて神戸日独協会には定期的なワイン楽しむ会がありましたがしばらく途絶え、2015年度は3月に一度開催したのみです。今回は実行委員会の若者を中心に、若者の目線であらためて課題に向き合い、企画を再編成しました。ここで学んだ知識や美味しいワイン、ラベルに書かれたドイツ語一つひとつが、日常的にドイツワインに親しみ、ひいてはドイツ文化の「今」を見つめるきっかけとなれば幸いです。

難しいことは置いて、まずはパンを片手にワインを飲んでみましょう。

第1回「世界のワイン、ドイツのワイン」/1.: WEINPROBE

第1回目は神戸北野の株式会社ドイツ商事の松田耕治氏を講師に迎え、世界のワインと、その中におけるドイツワインについて、パンと数種類のワインを味わいながら解説いただく予定です。かつてワインといえば「ヨーロッパのお酒」のイメージでしたが、昨今は中南米やオセアニア産のワインも存在感を強めています。そんな中でのドイツワインとは？そもそもドイツワインとは？目からウロコの解説と美味しいワインで、知識も味も思い出も、きちんと残るひとときを。

ワイン初心者さんも大歓迎です。

■日時/Zeit: 2016年11月6日(日曜日)14時~/ Sonntag 6. November 2016 14:00～

■場所/Ort: 神戸日独協会会議室/ JDG Kobe

■予定／Plan:

14:00-16:00 株式会社ドイツ商事 代表取締役社長の松田耕治氏のお話を聞きながらワインを味わいます。／Von 14 Uhr bis 16 Uhr wird die Weinprobe der JDG Kobe abgehalten. Dabei spricht Herr Koji Matsuda, Geschäftsführer des Deuche Handels AG, über das Thema.

■定員／Teilnehmerzahl: 20名 / bis 20 Personen

■費用／Kosten(当日支払い): 非会員:2,000円 / :2,000 Yen 会員:1,800円 / 1,800 Yen

■申込／Anmeldung: 2016年11月2日(水曜日)まで / Bis Mittwoch 2. November 2016

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

秋の遠足(10月23日)

今年も会員親睦のための遠足に行きます。現在大河ドラマ「真田丸」が放送中ですが、来年は井伊直虎が主人公です。この度会員の野中信二さんが、『直虎と直正』を学陽書房から出版されました。著者の野中さんの案内で秋の彦根城を巡ります。

時間	内容
11:00 集合	JR彦根駅北口(彦根城側) <JR案内> 9:05 三宮発(9:21)片道 ¥2,270 9:14 芦屋発 9:28 大阪発 10:48 彦根着(11:13) ☆鉄道の日記念一日乗り放題切符(3,000円)がお得です (みどりの窓口で販売)
11:30 昼食	あゆの店きむら彦根京橋店(0749-24-1157) 彦根市本町2-1-5 昼食代 2,000円
12:30 城散策	彦根城散策(入場料 1000円) ガイド料 1,000円(参加人数で割ります)
15:00~16:00	彦根市学芸員による特別講座「井伊直弼の生涯」
16:30 解散	JR彦根駅北口

申込: 2016年11月2日(水曜日)までに協会事務室へ。

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

解散後、昨年訪問をした大津のドイツレストラン「ヴェルツブルク」に立ち寄り、美味しいドイツ料理とフランケンワイン・ドイツビールで秋の一夜を楽しみます。参加希望の方は、申込の際にお申し出ください。飲食および飲み物代は各自払いです。

ドイツ文化サロン

「女性が支える国際交流」

第13回 『みんなちがって、みんないい』

- ・講師：福田 洋子さん(神戸松蔭女子学院大学 文学部教授)
1950年香川県高松市に生まれる。大学卒業後、24歳で結婚。
1975年から1977年まで大阪に開設されたシンガポール総領事館に勤務する。
1977年から1990年までドイツ銀行大阪に勤務した後、大学教員となり、ビジネスやコミュニケーション科目を担当し現在にいたる。プライベートでは陶芸を楽しんでいる。
- ・日時：2016年11月18日(金)18:00～20:00 (開場 17:45)
- ・会場：ユーハイム神戸元町本店ホール(3階)
- ・会費：会員および家族 1300円、非会員 1500円 (ケーキと飲物代)
当日受付にて支払ってください。
- ・申込：11月16日(水)までに事務室へメール・電話・ファックスでお申し込みください。

「シュタムティッシュ」

「世界遺産のライン渓谷中流上部を巡る」に参加して

理事 松田耕治

旅行(特に海外)に行かれた方の共通点は…ウンザリするほどの写真を延々と見せつけられるところですが、今回はシンプルな写真説明でとても解り易く、船旅の様に心地よく時間が流れました。が、しかし、9日間オランダからライン河を上り、途中モーゼル河もベルンカステル付近まで往復され、更にコブレンツから再びライン河をスイス バーゼルまで優雅にクルーズされたお話をお聞きすると、何とも時間とお金のバランスの良さにむしろ嫉妬さえ感じるものがあるのです…今、この文を書きながらも…羨ましい…。

サブテーマであるコブレンツからリュードスハイムまでのお話には、普段は同じルートを毎年ドイツワイン買付けする私にとっては…葡萄畑しか見ていないと。

世界遺産に登録されている大好きなミッテルライン地域、バハラッハのライン河両岸には大小様々な歴史的、文化的に価値ある古城が点在していたことを思い出し、機会があれば改めて古城も訪ねてみたいと思いました。参加者からは「ローレイは単なる岩だった!」「それは世界三大ガッカリに入るそうですよ!」がとても印象的でした。

あと二つのガッカリは何でしょうか? 楽しいひと時でした……。

ドイツ語談話室

第154回ドイツ語談話室

日 時 : 2016年9月17日(土) 14-16時

場 所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : 英国の EU 離脱

今回の司会は松浦庸夫氏が担当され、英国が EU 離脱を問う国民投票を実施してからの流れを振り返られた。そして、英国は利口だから、正式な脱退の手続きは、まもなく行われるフランスやドイツの選挙の結果を見てから手を打ち始めるだろう、と推測された。

次に参加者がテーマについて意見を述べた。以下その一部を紹介する。

- 今回の英国国民の選択は、EU 加盟国の事は考えずに、自分たちだけの事を考えた利己的な結論だ。
- やはり、移民や避難民の急増に対する不安が、イギリス国民にとって一番の関心事だった。
- キャメロン自身は、残留の結果を計算してやったのだろうが、国民投票はおろかな選択であった。
- 英国国民だけでなく、人々は情動に左右されやすくなっている。ポピュリズムが世界中に蔓延して、民主主義の弱点が現れてきている。
- 英国は伝統的に利口で賢いから、EU から離れても十分やってゆくだろう。
- EU の官僚組織は肥大化しすぎている。縮小しないと EU は生き延びられないのではないか。
- 対避難民問題は、EU にとって今一番大きな、かつ危険な問題である。
- 政治家たちは、良くなる話ばかり取り上げるが、問題が生じるとだれも責任を取らない。
- このような政治家を選んだのは国民だから、国民にも責任がある事になる。
- 参加者の一人が、英国 EU 離脱の背景を、歴史を遡ってリストにして説明されたが、結果として NATO の弱体化と対ロシア政策の弱体化を嘆かれた。
- 英国をはじめ EU 各国には、主権を制限される事に対する不安と不満がある。
- 今後の EU の存続にとって、EU 設立の原点に戻って、理想と現実の両面から再検討する必要があるのではないか。

今後のドイツ語談話室の予定

第155回 10月15日(土) 14-16時 テーマ : ボランティア活動

第156回 11月19日(土) 14-16時 テーマ : 新しいアメリカ大統領

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 154. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 17. September 2016, 14 bis 16 Uhr

Thema: Brexit (Englands Austritt aus der EU)

Dieses Mal hatte Herr Tsuneo Matsuura die Gesprächsleitung und blickte auf die Sachlage nach dem Referendum in Großbritannien zurück. Er geht von der Vermutung aus, dass England, in der Regel sehr klug handelnd, den offiziellen Antrag zum Austritt erst nach den Wahlen in Frankreich und Deutschland machen wird. Bei der Gesprächsrunde kam es zu folgenden Wortmeldungen:

- Eine Teilnehmerin denkt, dass die Entscheidung der Engländer sehr egoistisch war. Die anderen Länder der EU wurden dabei nicht mitbedacht.
- Ein Teilnehmer denkt, dass die größte Sorge der Engländer wahrscheinlich die Zunahme der Immigranten und Flüchtlinge war.
- Premierminister Cameron führte das Referendum unter der Annahme durch, dass England sich für einen Verbleib in der EU entscheidet. Ein Teilnehmer merkte an, dass das wohl eine äußerst unkluge Fehlannahme war.
 - In England und überall auf der Welt, werden die Diskussionen emotionaler, es herrscht verstärkt Populismus vor. Ein Teilnehmer sieht darin den Schwachpunkt von Demokratie.
- England handelt traditionell sehr klug, und deshalb geht ein Teilnehmer davon aus, dass England auch alleine, außerhalb der EU, gut zurechtkommen wird.
- Eine Teilnehmerin denkt, dass die Bürokratie der EU Organisation zu groß geworden ist. Die EU muss ihre Bürokratie viel kleiner machen, um zu überleben.
- Ein Teilnehmer merkte an, dass das Problem der Flüchtlinge die größte und auch gefährlichste Frage für die EU ist.
- Eine Teilnehmerin zeigte sich ärgerlich, weil die Politiker immer alles schönreden, aber niemand dann die Verantwortung übernimmt, wenn es Probleme gibt.
- Hierzu bemerkte ein anderer Teilnehmer, dass wir, die diese Politiker gewählt haben, da auch Mitschuld tragen.
- Ein Teilnehmer bereitete eine Liste der historischen Hintergründe zum Brexit vor und erklärte die Zusammenhänge. Dabei äußerte er die Sorge, dass der Brexit die NATO schwächen könnte, was auch den Druck gegen Russland abschwächen würde.
- Ein anderer Teilnehmer führte an, dass in den EU Ländern, inklusive Großbritannien, Unzufriedenheit herrscht, bezüglich der Beschränkung ihrer Souveränität durch die EU.
- Ein weiterer Teilnehmer sprach das Thema an, dass sich die EU für ihr Überleben die

ursprünglichen Ziele ihrer Gründung, ihre Ideale und deren praktische Umsetzung in Erinnerung rufen und diese auch neu überdenken muss.

Nächste Treffen:

Samstag 15. Oktober 2016 14 bis 16 Uhr Thema: Freiwillige Aktivitäten

Samstag 19. November 2016 14 bis 16 Uhr Thema: Die Präsidentschaftswahlen in den USA

「シュタムティッシュ」

日 時: 10月22日(土) 15時~17時

場 所: 神戸日独協会会議室

テーマ: 「私にとってのベートーベン」

今回は、ドイツの作曲家で楽聖と呼ばれ、数々の名曲を作曲し世界の多くの人に親しまれているベートーベンをテーマに取り上げます。昔、小学校で「喜びの歌」を合唱しただけだが、その旋律が忘れられず今も時折口ずさんでいるという方から、特に「第五交響曲」の力強さに魅せられて時折CDで聞いているという方、とにかくベートーベンの作品が好きで、機会があればコンサートにも行っているという方、ベートーベンの作品はよく知らないがベートーベンに興味があるという方等いろんな方に参加いただき、それぞれの方にとってベートーベンとはどんな存在かを語り合っていたきたいと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。

参加費: 一般 800円 会員 500円 (ソフトドリンク、お茶菓子付き)

当日受付にお支払いください。

申し込み: 10月21日(金)までに事務所までメール・電話・ファックスでお申し込みください。

日独若者の「神戸再発見」

第 33 回 アロマジェルキャンドル作り報告

足立 翔

9月のGJG「神戸再発見」では、トアロードに面して建つ北野工房のまちを訪れ、アロマジェルキャンドル作りを体験しました。旧北野小学校の校舎が商業施設として活用されていて、まず一階の入り口を通ると神戸ならではのお菓子やお酒の店舗が、二階では和ロウソク・アロマキャンドル・レザークラフト、アクセサリーなどクラフト体験ができる店舗が立ち並び、たくさんのお客さんで賑わっていました。

アロマキャンドル作りでは、ガラスの中心に芯を立てて底に色とりどりの砂で下地を作り、貝殻・ビーズ・ガラス小物で装飾し、アロマキャンドルを流し込んでいきます。ガラス底と中間層に装飾を施せるので参加したメンバーはそれぞれ個性的な作品を仕上げていました。

ガラスの底と中間層の2箇所のデザインを考える時、砂の色やガラス小物の種類が何十種類もあり、皆さん素材選びに熱中していました。途中のアロマキャンドルを冷ます時間、旧北野学校を訪れた感想や、神戸とその他の学校、またドイツの学校の違いについて話が盛り上がりました。

体験終了後、1階の旧校長室で多くの資料を見ながら学校の歴史を知ることができました。中でも小学生用の机と椅子、時間割表が懐かしく感じられました。

第34回 秋の遠足/34. Ausflug : Schloß Hikone

第34回は協会主催の「秋の遠足」に参加をして、彦根城を散策します。

詳しくは、「秋の遠足」の項をご覧ください。

Nächstes Mal werden wir mit Mitgliedern der JDG Kobe einen Ausflug in Schloß Hikone machen.

大使主催「日独協会夏祭り2016」参加報告

理事 日下 澄子

9月22日、東京のドイツ大使公邸での「夏祭り」に出席いたしました。各地方からご参加の皆さまと懇談する機会に恵まれ、励まし励まされ、神戸に戻ったら活動も勉強も頑張ろう！と思う一方で、個人的に感じたことは次の2点です。

<1. 課題意識の温度差>

「夏祭り」への参加動機、あるいは日独協会に所属する目的意識・立場、また各日独協会の事情はそれぞれ異なりますので、それ自体が「良い／悪い」と言いたいのではなく、せつかくこのような場に集うことができたので、できればお互いに、少し立ち入った課題について懇談できたら良いのにと感じました。時間が限られていたことと、色々な立場の方が参加する中でこのような望みは難しい面がありますが、核心に迫る話題に触れ、お互いが次の一步を踏み出すきっかけになると、より有意義だと思ったのでした。(しかしお互いが本気で語りだしたら夜通しになりそうです)

<2. 継続的コミュニケーションの大切さ>

日独青年交流を担う団体「日独ユースネットワーク」の方と懇談し、今年4月の全国日独協会連合会会合に引き続き、神戸の参加意思を伝えました。しかしこれからの連携・協力といった点については、参加する立場としても今後の課題であると認識しています。距離の隔たりや、お互いに自分が所属する協会の活動や勉強、仕事をしながらの関わりのため制約が大きいことは明白ですが、だからこそやはり、関係を途切れさせることなく「じっくり地道なコミュニケーションの継続が鍵」

だと感じました。

私たちは会報やホームページを通じて神戸日独協会の情報を発信し、各日独協会の会報やブログ等から情報を受け取り、それについて自分たちはどう感じるのか、何ができるのかを考え、意見を交換できたら良いな、と思いました。これは「夏祭り」で知り合った各地方の方々に対しても同じと捉え、この出会いを大切にいたします。

今回は各日独協会の45歳以下の会員に参加が呼びかけられましたが、実際には幅広い年齢層の方が集まったとのこと。ヴェアテルン大使や通訳・翻訳課長のオステンさん、Youtube「ドンドドイツ語」でおなじみのタバアさん、そして東京・神戸を含めた13の日独協会の「若者たち」にお目にかかることができました。本当は、年齢はあまり関係ないと思います。また何かで一緒できる日が来ることを楽しみにしています。

クリスマス祝賀会（予告）

毎年好評をいただいています恒例の「クリスマス祝賀会」の開催予定。

日 時： 2016年12月4日(日) 17:00～

場 所： 神戸倶楽部

次号にて詳しいご案内を致します。ご予約にお入れください。

事務室からのお知らせ

新事務員紹介

広田直子さんが事務局に加わりました。よろしく申し上げます。

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。会報の次回発送予定日は11月10日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越し下さい。

お詫び

10月の「シュタムティッシュ」のご案内が編集者の落ち度で会報の印刷時に抜けてしまいました。お詫び申し上げます。会報のメール発信版及びHP版では掲載いたしました。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
10月15日(土) 14:00~	第155回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室 (19階)	当日参加可
10月22日(土) 11:00~	シュタムティッシュ	神戸日独協会 会議室 (19階)	10月21日(金)
10月23日(日) 11:00~	秋の遠足	彦根城	11月2日(水)
11月6日(日) 14:00~	ドイツワインの会 第1回「世界のワイン、ドイツのワイン」	神戸日独協会 会議室 (19階)	11月2日(水)
11月18日(土) 18:00~	ドイツ文化サロン第13回 「女性が支える国際交流」	ユーハイム 神戸元町本店	11月16日(水)
11月19日(土) 14:00~	第156回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室 (19階)	当日参加可